



3年生環境科学科「ディベート本戦」が開幕！

環境科学科3年生「SS探究科学Ⅲ」の授業では毎年、**ディベートの成果発表会（ディベート本戦）**を行っています。ディベートは、ある論題（テーマ）について、肯定派と否定派が議論を繰り広げ、その議論を聞いていた第三者が審判となり、どちらがより説得力があるかを判定します。ディベート学習を通して、論題背景や発言内容等の理解力、発言内容を客観的に分析する力（批判的思考力）、自らの考えを的確に効率よく伝える伝達力等が身に付きます。今年度は、『日本は救急車の利用を有料化すべきである。是か非か。』、『日本は積極的安楽死を法的に認めるべきである。是か非か。』、『日本は防犯カメラによる顔認証システムを法制化すべきである。是か非か。』の3つの論題でディベートに取り組んでいます。

10月16日（月）、『日本は救急車の利用を有料化すべきである。是か非か。』についてディベートの本戦を行いました。審判には中学3年生の生徒が参加しました。当日は、非常に白熱した論戦が繰り広げられました。



以下、審判に参加してくれた中学3年生の感想です。

『中学生のディベートとは違った雰囲気がおもしろかった。中学校のディベートではその場その場で考えた反駁と事前に考えてあった反駁の違いが分かるものが多かったが、高校生のディベートはどの反駁もしっかりとした文で構成されていてすごいなと思った。』『中学校でしたディベートとはだいぶ違った形式だったけど、見ていてすごくおもしろかった。』『高校生の立論を見て、まず自分たちとはレベルが違うほど立論の密度がスゴイと思いました。理想的なディベートの姿が学べたと思います。』『最後の審判の感想で、高3の先輩が答えていた。僕は否定側一色だったが、その感想を聞いていると肯定側に引き込まれそうになった。』